

令和7年度滋賀県献血推進協議会 議事概要

日 時：令和8年2月5日（木）午後3時30分から午後4時45分

場 所：大津合同庁舎 7-A会議室

出席者：小嶋次長、高橋委員、佐藤委員、村杉委員、三木委員、吉岡委員、千代委員、川西委員、岡田委員、雲根委員、西出委員、大坪委員、片岡委員
中村幹事、辻幹事
（事務局）三浦課長補佐、高崎主査、岡主任主事、成田主事
（血液センター）黒岡事業部長、黒田献血推進課長

議事概要

1 令和7年度血液事業の実施状況について

委 員：この資料では実績数値がすべて4月～12月までの9か月分で集計されているが、目標数値等と比較するためには12か月分の数字を用いるのが適切である。例えば、1月～12月までの1年間の数字を掲載するなど、比較可能性に配慮した資料に改善するべきではないか。

事 務 局：直近の数字を御覧いただくことを念頭に資料を作成していたため、これまで9か月分の集計結果により資料を作成していた。御指摘を受け、資料の記載方法については見直ししてまいりたい。

委 員：若年層への献血の推進が課題となっているが、令和7年度において工夫した点や成果、新たな取組などはないか。

事 務 局：ある高校では野球部顧問の先生が熱心な方で、その方から校内に呼びかけしていただいた結果、予想を超える人数に献血に御協力いただいた。来年度以降も継続して高校献血を実施いただけることになっており、教員の方に意義を理解していただけると大変ありがたい。

委 員：いい話を聞くことができた。若年層の献血者数を一気に上げるような方法はあまりなく、実際重要なのは地道な啓発活動ではないかと感じている。大変だと思うが、頑張って若年層が献血しやすくなる取組を進めていただきたい。

2 令和8年度滋賀県献血推進計画（案）および令和8年度若年層献血推進アクションプラン（案）について

委 員：先ほどの資料1と、いま説明いただいた資料3の令和6年度の献血者数を比較すると、資料3では10代が2,259人、20代は6,125人という数値であるが、資料1では10代が1,720人、20代は4,737人となっており、値が違っているのではないか。

事 務 局：その点については先ほど委員から御指摘いただいたとおり、資料1が4月～12月の9か月分の数値である一方、資料3は1年度分の数字であるため、違いが生じてしまっている。分かりにくい資料となっており申し訳ないが、今後改善してまいりたい。

委 員：年代別不採血率のデータを見ると10代20代の不採血率が高い。そのため、若年層の献血者を増やすためには、他の年代よりも一層多くの受付者数が必要になるのではないか。また、不採血率を男女別にみれば違いが出てくる可能性があると思うので、そのデータも出していただきたい。

このようなデータを分析することで、例えば若年層への栄養指導と連携して献血の普及啓発を図るような、新しい取組ができるかもしれない。そういう取組を県が主導でやってもらいたい。

事 務 局：栄養指導等と絡めて献血普及につなげられれば有効な施策になるかと思われるので、どのように実施できるか、これからは是非検討させていただきたい。

- 委員: 今回の資料2-2献血推進計画新旧対照表を見ると、令和7年度と令和8年度の違いは目標数値のみとなっているが、令和7年度と令和6年度ではどのような変更があったのか。
- 事務局: 令和7年度計画策定時に、SNSを活用した普及啓発に取り組むことを新たに記載した。令和8年度は資料2-2のとおり前年度から目標数値以外の変更点はないが、これは SNS やインターネットを活用した普及に継続して取り組んでいくという思いでそのようになっているもの。
- 委員: 若年層献血推進アクションプランでは10代20代の献血を増やすことをうたっているが、それを SNS やインターネットの活用で達成するという意図と理解すればよいか。
- 事務局: 具体的な若年層への普及啓発の取組については、若年層が主にインターネットを通じて情報収集をしているという状況があるので、多くの人に効率的に情報を届けるという意味でも SNS やインターネットの活用に関しても取り組んでいく必要があると考えている。
- 委員: SNS で広告を打つ際には、献血会場の周辺や届けたい年代等に対象を絞り込んで行うことが重要ではないか。加えて、発信する内容についても、献血したら記念品がもらえるという点だけをアピールするのではなく、実際に献血で助かった人の体験談を盛り込むなど、献血の意義を伝える形にするのがいいのではないか。
- また、現状献血者の約3割を占める30代40代を対象とした施策が行われていないのではと感じられる。例えば子育て中の方が献血しやすくなるよう、献血中に託児ができるとか、献血会場にお子さん遊ばせておく場所を設けるなどの対策はできないか。
- 事務局: 広報について貴重なご意見をいただいた。これからの普及啓発に生かしてまいりたい。献血の意義については献血学習事業等の機会に学生さんになどお伝えしている。
- また、お子さんを見てもらうためのスペースを用意できないかということについては、大阪の大きな献血ルームではそのような取組をしていた例がある。滋賀の献血ルームではどのような対策ができるか、いただいた意見を持ち帰って検討し、30代40代の方にも献血していただきやすい環境づくりに努めてまいりたい。
- 議長: 貴重な意見だと思われるので、献血の意義が伝わるような広報の取組や、30代40代の方が献血しやすくなるような取組をお願いしたい。
- 委員: 若い方からの意見は非常に大切である。がん検診など他の事業でもお子さんを預かる仕組みを用意して受診しやすくなるようにしている。県には、横との連携を強化して、そういう他の事業でどういう対策をしているのか知っておいてもらいたい。
- 委員: 高齢化により、現在献血者のボリュームゾーンを占める年代が、今後10年か20年ほどで献血できない年齢になっていく。日本赤十字社の本社でも対策を考えていると思うが、滋賀県の今後の方針としてはどのように考えているのか。
- 事務局: 50代60代の方が年齢のために近いうちに献血できなくなることは大きな問題と認識している。特に滋賀県に関していえば、高校献血や献血セミナーがまだ全校で実施できていないことから、さらに取組を強化していく必要があると感じている。
- また、小学生や中学生への啓発ということもこれから実施していく必要があると考えており、親子で参加できる献血イベントは人気があることから、さらなる実施を検討してまいりたい。
- 議長: 若年層への献血普及はもちろん大事である。それに加えて、職場での献血実施も進めていかないとけない。今日御参加の委員の皆様におかれては、事業所への働きかけの機会が無いのか、情報提供をお願いしたい。
- 委員: 若年層への啓発普及に当たっては動機づけが大事だと感じる。先ほど健康指導と連携した取組が話題に上がっていたが、養護教諭の先生方と協力して効果的な啓発につなげていただければと思う。
- もう一点、医療現場では輸血によって助かった患者さんがいれば、その御家族は献血の意義について強く認識していただいていると思う。こうした現場の認識を啓発に活用していただくのも大事ではないか。